

# 人にもまちにも思いやり。未来へつなごう 誇れる「いけだ」

## 「いきいき歩ける あんしんのまち」

すべての人が、「いきいき歩ける あんしんのまち」をつくるため、まちのバリアフリー化を進めます。「交通バリアフリー法」の趣旨に沿って、「ユニバーサルデザイン」の視点をもって、鉄道駅やその周辺の歩行者空間などの整備を、重点的・一体的に行います。

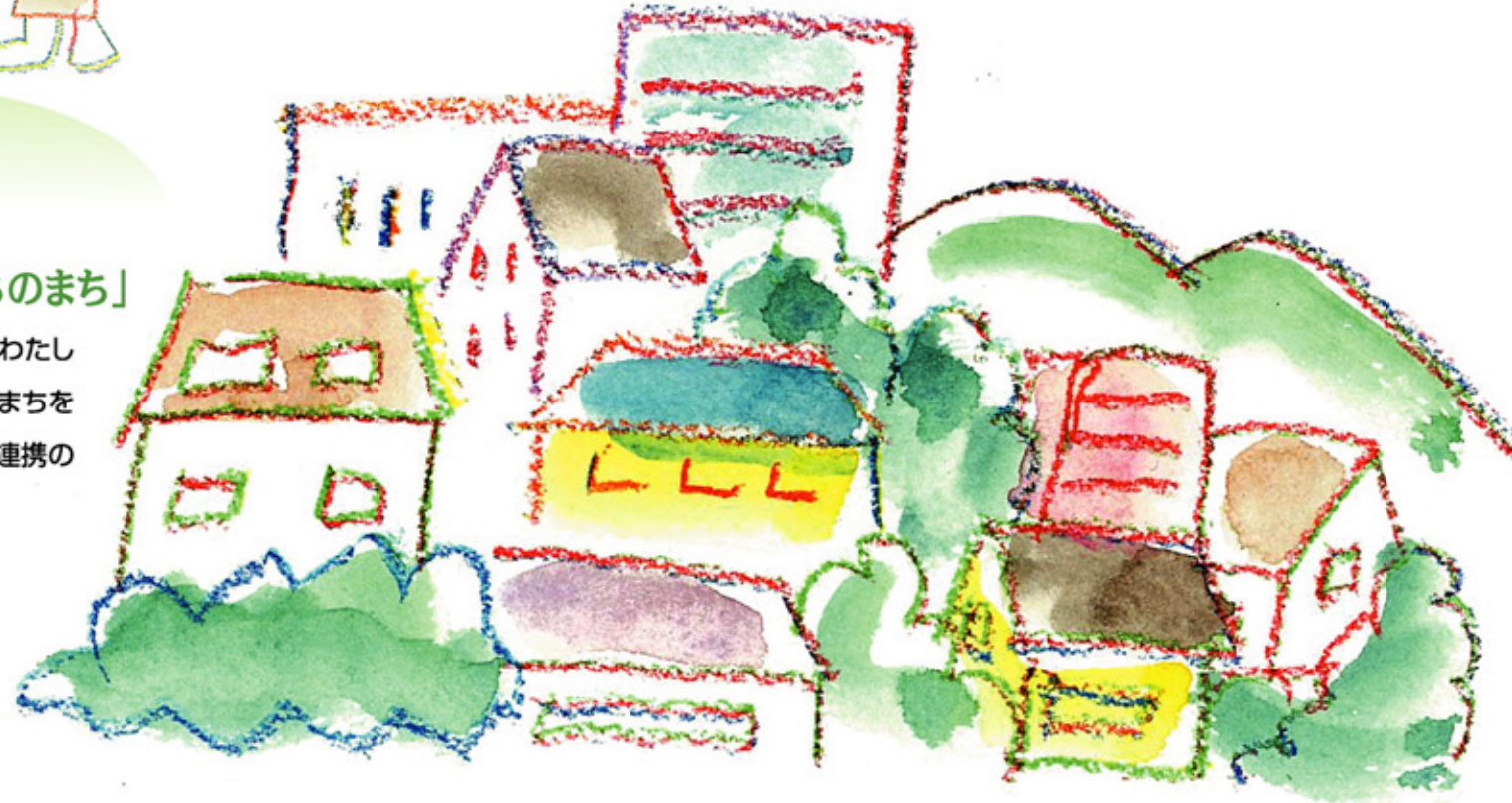


## 「あいさつ交わし ゆずりあうまち」

すべての人が「あいさつ交わし ゆずりあうまち」をつくるため、心のバリアフリー施策を進めます。まちの活性化の視点もふまえ、啓発・教育・人的支援などの活動に、積極的に取り組みます。

## 「次世代へつなごう わたしたちのまち」

これからの時代を生きる子どもたちに「わたしたちのいけだ」と、愛着や誇りをもてるまちをつくるため、世代や立場をこえた大きな連携のもと、たゆまぬ努力を続けます。



「交通バリアフリー」のまちづくりを進めるためには、行政や事業者だけでなく、市民の協力や参画が必要です。市民から生まれた意識と理解を行動に移し、「心のバリアフリー」を進めなくてはなりません。その果たすべき役割を以下の3つに示します。

### 1.自分から問題行動を改善しましょう

放置自転車や不法駐車などが、まちの大きなバリア（障壁）となっている現状を、一人ひとりが自覚しましょう。行政や他人任せではなく、自らが当事者意識を持って、問題行動を変えていきましょう。

### 2.整備の推進と質の向上を図りましょう

整備事業が、誰もが利用しやすいものとなっているか、順調に進んでいるかを確認しましょう。事業者に自分の意見を的確に伝え、他のニーズを持つ方の意見も取り入れることが、質の高い改善に繋がります。さらに、事業のしくみや課題を学び、市民自らが、より良い提案ができる力を身につけましょう。

### 3.互いに助け合う風土をつくりましょう

高齢者や障がい者などを特別扱いせず、互いに助け合う気持ちを、行動に移していきましょう。まちで困っている人に「何かお手伝いしましょうか?」と声をかける、地域に貢献するNPOやボランティアに参加するなど、できることから、始めましょう。